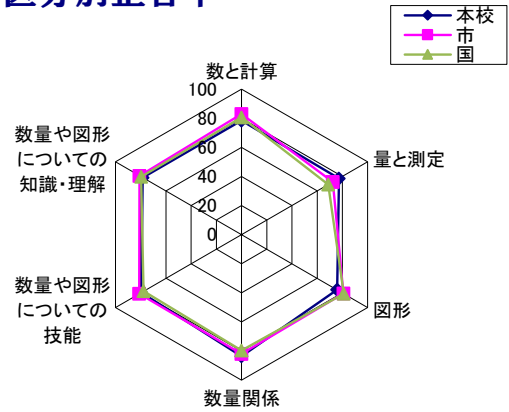


宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

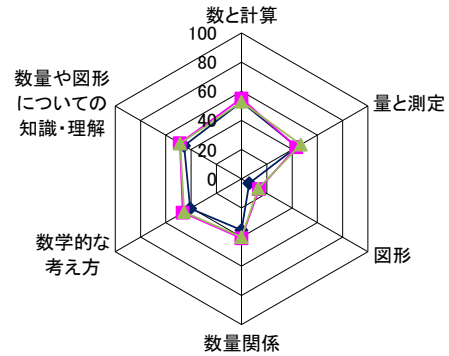
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	78.4	82.9	80.6
	量と測定	77.3	72.5	68.8
	図形	75.8	80.8	81.1
	数量関係	83.6	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	79.5	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	78.4	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	52.7	55.1	52.8
	量と測定	43.9	43.4	47.0
	図形	6.1	13.8	13.2
	数量関係	35.2	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	40.7	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	45.5	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数B(活用)では、全国の平均正答率とほぼ同じである。 ●算数A(知識)では、市は約4ポイント、全国は約2ポイント平均正答率をやや下回っている。	・計算ドリルを繰り返し活用したり、宮っ子ステップアップシートを活用したりして、計算力の向上を図る。 ・なぜそのような式・計算になるのかを考え、自分の考えを書く時間を確保し、指導する。
量と測定	○算数A(知識)では、市は約5ポイント、全国は約8ポイント、平均正答率を上回っている。 ○算数B(活用)では、市の平均正答率をやや上回っている。 ●算数B(活用)では、約3ポイント全国の平均正答率を下回っている。	・三角形や平行四辺形の面積の求め方など、既習内容を復習することで、習熟を図る。 ・平均の求め方を復習するとともに、理科や総合的な学習の時間でも調べたことをまとめるときに平均の考え方を活用し、習熟を図る。
図形	○正多角形に関する問題については、全国の平均正答率を上回っている。 ●算数A(知識)では、市と全国の平均正答率を約5ポイント下回っている。 ●算数B(活用)では、市は約8ポイント、全国は約7ポイント平均正答率を下回っている。	・定規やコンパスなどの使い方を繰り返し練習し、正確に作図ができるようにする。 ・具体物の操作活動やICT機器の活用を取り入れることで、立方体の面と面の位置関係や展開図等の理解を深められるようにする。
数量関係	○算数A(知識)では、市と全国の平均正答率を上回っている。 ●身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題については、全国より約7ポイント下回っており、無解答率は約12%だった。 ●算数B(活用)では、市と全国の平均正答率を約5ポイント下回っている。	・文章問題に繰り返し取り組み、問題文の意味を考えながら立式・計算ができるようにする。 ・答えを求めるだけでなく、計算の過程や式の意味を説明する場面を設定し、思考力を高めていく。 ・グループ学習を意図的に取り入れ、友達との話し合いを通して、自らの考えと比較し、理解を深められるようにする。